

弦楽四重奏

ガラ・コンサート

PROGRAM

ハイドン Franz Joseph Haydn

弦楽四重奏曲第48(63)番 ハ長調 Op.64 No.1
String Quartet in C major, Hob. III:65, Op. 64 No. 1

モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart

弦楽四重奏曲第15番 ニ短調 K.421
String Quartet No. 15 in D minor, K. 421 (417b)



1st Violin
立花 礼子
Tachibana Reiko

県立西宮高等学校音楽科、フランス国立リヨン高等音楽院卒業。東欧諸国での演奏活動の後編。現在は関西を中心とするオーケストラの客演をはじめ、現代曲の演奏にも積極的に取り組む。A. Deux主宰。播磨室内合奏団、KOBEパツハ合奏団メンバー。



2nd Violin
小野村 友恵
Onomura Tomoe

茨城県立水戸第三高校音楽科、武庫川女子大学音楽学部卒業。アンサンブルのタベ、関西新人演奏会等出演。卒業後室内楽クラスで助手として勤務。関西を中心に様々なシーンで演奏活動を行い、後進の指導にもあたっている。



Viola
安部 薫
Abe Kaoru

大久保北中学校、明石南高校、大阪音楽大学卒業。明石で機械設計製図の仕事をする傍ら休日音楽家として活動を行う。明石弦楽オペラ会並びに明石弦楽四重奏団、明石楽譜出版各代表。明石フィルハーモニー管弦楽団員。



Violoncello
尾崎 達哉
Ozaki Tatsuya

県立西宮高等学校音楽科、愛知県立芸術大学卒業。京都市立芸術大学大学院修了。チェロを中村整、上塚憲一、河野文昭、上村昇の各氏に師事。チェロ・アンサンブル・エクラのメンバー。現在フリーランスとして関西を中心に活動している。

弦楽四重奏の歴史と魅力

多くの楽器編成が存在する室内楽の中でも究極のスタイルと称される弦楽四重奏。17世紀頃に誕生したといわれるこの編成は、18世紀に“弦楽四重奏の父”と呼ばれるハイドンによって昇華され、それに触発されたモーツァルト、更にはベートーヴェンへと受け継がれ発展を続けます。現在に至るまでに多くの作曲家、演奏家、そして聴衆に愛されてきた弦楽四重奏。なぜ人々は惹きつけられるのでしょうか。その答えは人の声に一番近いとされるヴァイオリン属によるソプラノ、アルト、テノール、バスという最もシンプルで無駄のない組み合わせ、正に“究極のスタイル”であるからなのかもしれません。今回は物語の始まりを想わせる軽快なハイドンの1曲、そしてモーツァルトが作曲しハイドンに献呈した作品の中より珍しい短調の1曲をお届けします。
〈上演時間 1時間10分〉

2021年11月28日(日)
14:00開演(13:30開場)

明石市民ホール

らぼす5階(明石駅南徒歩5分、国道2号沿い)

一般 2,000円
高校生以下 1,000円
※0才から入場可、ひざ上鑑賞は無料(価格は税込)

全席自由

〈先着110席〉

- ◆インターネット予約
右QRコードまたはホームページより
- ◆電話予約
090-6902-3150(あべ)
- ◆窓口販売(9:00~20:00/平日月曜は休館)
明石市民会館 078-912-1234
西部市民会館 078-918-5678



チケット予約

主催：明石弦楽オペラ会 後援：明石市、明石文化国際創生財団

お問い合わせ：☎090-6902-3150(あべ) E-mail: akashi.string.opera@gmail.com